

「西神吉町ガイドブック」



かこがわ人の会

令和7年2月26日

目次

1. 西神吉町の歴史	P 1
2. 神吉八幡神社	P 2
3. 辻姫の墓	P 4
4. 岸の正岸寺	P 6
5. 西神吉町の観音霊場について	P 7
6. 西神吉町の石造遺物	P 10
7. 西村八王子神社（大歳神社）	P 14
8. 長慶薬師堂	P 14
9. 西神吉町の恩人	P 14

1、西神吉町の歴史

西神吉町は「播磨国風土記」では含藝の里、大國の里に含まれています。又江戸時代の地誌「播磨鑑」では、神吉荘として登場します。

町内には古墳や、古墳に使われていた石棺材があちこちにあり、この地域が古くから開かれていたことが想像できます。

行政上色々と村の変遷がありましたが、現在は^{かなえ}鼎、宮前、中西、西村、大國、岸、辻の7地区から西神吉町は成り立っています。

鼎は明治11年に下富木、清水、長慶が合併し、鼎の足に因んで名づけられた地名で、清水は慶長年間（1596～1614年）に下富木から分かれ、長慶は天正年間（1573～1591年）に同じく下富木から分かれ、慶長の年号の文字をさかさまにして、長慶になったと言われています。

宮前は神吉妙見社前に位置するところからの地名と言われています。

しかし、同社はもと大國の御旅所の地にあり、現在地に移されたのはのちの時代のことで、宮前の地名は「播磨国風土記」の景行天皇の印南郡行宮がこの辺りにあったので、宮前と呼ばれるようになったとも言われています。

西村は神吉の西にあるところからの地名で、中西は神吉と西村の中間にあたる^たるところから地名となったもので、西

村、中西とも神吉から分かれたものと言われています。大國は「播磨国風土記」の大國の里からの地名で知られています。百姓家が多くあったので大國と言われていたようです。岸は「印南郡誌」によると、大地の端に集落が発達したからの地名で、縄文、弥生の岸遺跡で知られています。

辻は集落内に辻姫の墓がお祀りされており、辻姫からの地名であるとか、又、池そばの四辻からついた地名ではないかとも言われています。

2、神吉八幡神社

祭神は誉田別命（応神天皇）で、応永3年（1396年）創建、もと天下原の鞍馬寺の境内にあったものを大國に遷座し、妙見大明神としてお祀りしたのが始まりと言われています。



嘉吉の乱（1441年）で社殿がことごとく焼かれました。その後宮前の宮山に社殿を建て、妙見山宝林寺中之坊妙見大明神と言われ、大国の方は御旅所となりました。嘉永9年（1632年）落雷により、社殿ほか建物はことごとく焼失し、天和3年（1683年）に再建されました。現在は神吉八幡神社を上宮、大国にある八幡神社を下宮と呼ばれています。

本殿に向かって右にある灯籠は加古川市内で最も古い灯籠と言われています。神吉城主神吉頼定により、天正3年（1575年）に建てられたことが刻まれています。形から見てこの灯籠は江戸時代のもので、灯籠が傷み建て替えられ、古い灯籠に記されていた文字を写して彫ったものと言われています。

隋神門を入った目の前の高い石垣に、神吉城主神吉頼経が築いた石垣であることが刻まれた石があります。平成28年石垣改修時、同神社の他の場所の石垣から移されたものです。

又、神社には加古川市指定文化財の「祭礼絵巻」が伝えられており、文政3年（1820年）当時の祭りの様子がいきいきと描かれています。

妙見本社（神吉八幡神社）から大国の八幡神社までの行列が描かれ当時の姿が偲ばれます。「祭礼絵巻」は縦400mm、横9,000mmもの大きさがあります。

祭礼は現在も昔と同じように行われており、いつまでも続いていく行事、文化遺産であることを願っています。

開運、厄除け、交通安全にご利益があるとのこと。氏子は鼎、宮前、中西、西村、大国、神吉、天下原で、辻、岸は生石神社の氏子になっています。

（「創立百周年記念誌 加古川市立西神吉小学校」より）

3、辻姫の墓

辻に「辻姫の墓」という石棺仏がお祀りされています。



戦国時代、今川義元の家臣で高谷左衛門尉秀重という人がいました。

永禄3年（1560年）織田信長と今川義元との戦い（桶狭間の戦い）で今川義元が敗れた後、毛利方の別所氏を頼り辻の地に移り住みました。

その後信長の播磨攻めの際、毛利方につき山頂に砦を築き信長軍と対峙しました。

山頂辺りには今も砦跡と思われる遺跡があるそうです。天正8年（1580年）の戦いで秀重は戦死し、秀重の妻

と6人の子供達は放浪の末、20年後に戻り終の棲家としました。

この秀重の妻の名が「つじ」であったことからこの地を辻と言うようになったとのこと。

「つじ」は今川家の女と言う事しか解っていません。

秀重の子供の一人が正念寺を建立し、現在は17代目になっています。

正念寺は永禄4年(1561年)秀重の息子、宗順法師により開基された浄土真宗本願寺派の寺で、もと正念寺のあった場所に石棺材で造られた「辻姫の墓」がお堂の中に地元の人により、大切に守られています。

もとの辺りは高谷村と言われていたらしいです。辻には古墳や石棺が残されており、古くから人々が生活していたことが想像できます。

4、岸の正岸寺

岸は縄文時代から人々が住みついていた土地で、西神吉町では一番早く拓けた土地と思います。

岸の正岸寺は浄土真宗大谷派の寺で、本尊は阿弥陀如来です。

大永3年(1523年)創建、もとは天台宗だったそうです。浄土真宗大谷派の寺は加古川市内に7ヶ寺あります。

正岸寺は芦屋道満の屋敷のあった所として、江戸時代の地誌「播磨鑑」にも出てきます。



道満は平安時代の陰陽師で有名ですが、ここで生まれ幼年期をここで過ごしました。境内には道満の像と位牌を祀ったお堂と、式神を閉じ込めたという伝説が残る井戸、道満の業績を称えた碑があります。

道満には色々な話が残されています。式神の話、一つ火の話、こけ地蔵の話、修行の話、安倍清明との術比べ、播磨への追放の話などどの部分をとっても夢のような話です。

道満紹介の書物は沢山ありますが、加古川市教育委員会発行の「郷土のおはなしとうた第3集」に詳しく、平易に書かれていますので是非読んでみてください。

西神吉町には伝説、民話が沢山残されています。それらを訪ねて歩くのも又いいと思います。



5、西神吉町の観音霊場について

江戸時代から太平洋戦争が始まるまで、旧印南郡には「印南郡 33 所観音札所」があり、多くの人が訪れたようで今も札所は残っています。

西神吉町に 4ヶ所があります。

印南郡 33 所札所めぐりは、正徳 2 年（1712 年）に時光寺の南空上人見上和尚が始めたと記録にあります。

寛延 2 年（1749 年）のそれぞれの札所と、ご詠歌が記録されています。

ここで紹介するのは大正 12 年（1923 年）に定められたものからです。

観音信仰は、観音様がさまざまな姿、形に変化して人を救うところから人々に受け入れられてきました。

丁度一般の人が生活にゆとりを感じ、信仰にことよせて行楽に出かけるようになった時代から始まったようです。

旧加古郡にも札所はありました。

印南郡 33 所観音札所は、1 番曾根の観音堂から始まり、33 番阿弥陀の時光寺が結願の札所になっていました。

大正 12 年（1923 年）制定の西神吉町内札所には、17 番大国の常福寺、26 番宮前の真福寺、27 番清水の観音堂、29 番西村の観音堂の 4ヶ所が今も確認できます。

第 17 番大国の常福寺は寛文 3 年（1663 年）に創建された浄土宗西山禅林寺派の寺で本尊は阿弥陀如来です。

像は聖徳太子の作と伝えられ、神吉民部大夫の守り本尊であったと言われています。

もとは中西村の高井山景明寺にあったものをここに移したとされています。阿弥陀像の片目に落涙のあとがあるそうです。

これは民部大夫が意見の合わなかった甥を、抜き打ちに切り捨てた時から始まったと伝えられています。

ご詠歌は「常にただ 心にかけてよ法の道 これより他に福い（さいわい）はなし」です。

第 26 番宮前の真福寺は本尊は薬師如来、行基菩薩の作と伝えられています。

創建は承応 3 年（1654 年）ごろと言われ、あの三島由紀夫の祖父平岡家の菩提寺です。

ご詠歌は「うわならぬ 風吹くままに雲はれて 永く真澄の 月を見る哉」です。

第 27 番清水の観音堂は鼎にあります。

弘化 4 年（1847 年）の創建で本尊は十一面観世音菩薩です。

宝暦年間（1751～1764 年）に神吉八幡神社の妙見社を移したものとされています。

お堂の中には正面に弘法大師、左に賀野神社、雪彦大明神がお祀りされています。

観音堂は近くから移されましたが、同時にお地藏さん、大峰 33 度供養塔も移されており、老人会の人により大切にお祀りされています。

ご詠歌は「にごりたる 心を洗うみ仏の 法の清水にすがたうつして」です。

近くの旧家には、地名の由来になった井戸があるそうです。

第 29 番西村の観音堂は、創建明治 12 年（1879 年）、本尊は十一面観世音菩薩です。堂内には十一面観世音菩薩、左に薬師如来、右に文殊菩薩がお祀りされています。

境内には地藏堂、29 番霊場の石碑が建っています。

ご詠歌は「松風や 幾千代かけてみ仏の 法のときわの声ぞ尊き」です。

昔、特定の日に大勢の参拝者が見える時には、村の婦人部が総出で接待に努めたとのこと。

薬師如来の命日は 7 月 7 日、文殊菩薩の命日は 7 月 24 日、他に月に 1～2 回花や水を替えたりしておられるようです。今のお堂は平成 24 年に再建されたもので、この町の人の気持ちがよく表れています。

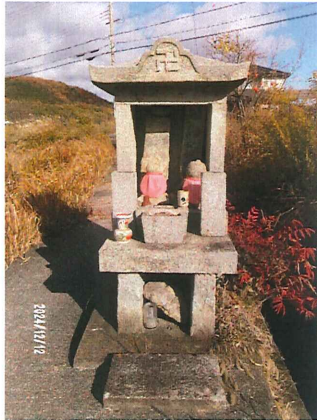
今後、印南郡 33 所観音霊場が脚光を浴びることを願っています。

（参考 「印南郡 33 所観音霊場めぐり」高砂ガイドクラブ）



6、西神吉町の石造遺物

西神吉町には古墳が沢山ありました。従って古墳に使用されていた石を利用した石造品もいっぱいあります。

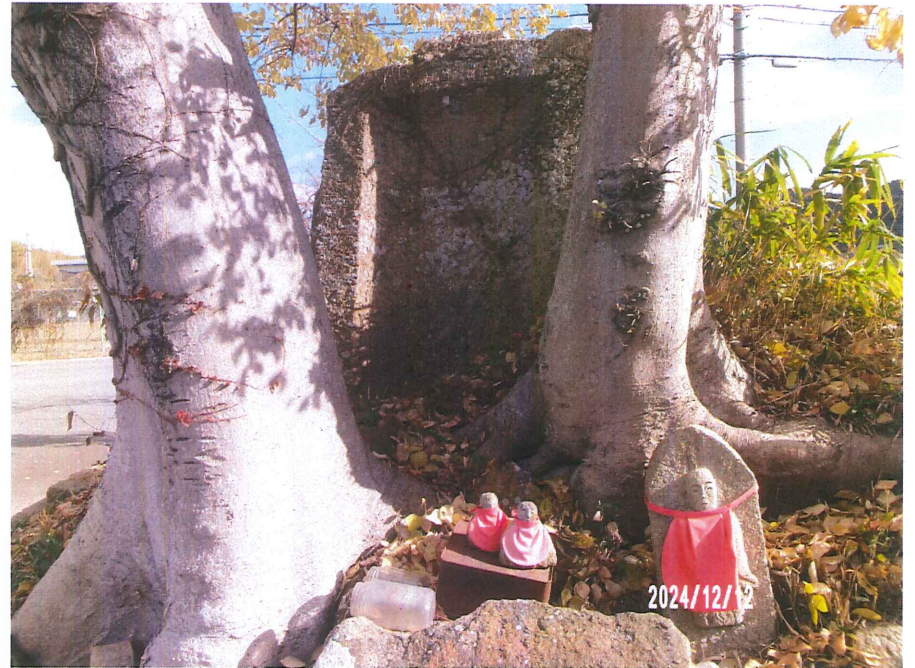


石棺とか石棺仏です。

石棺仏と言うのは簡単に言えば古墳の石棺材に彫られた仏様のことです。

以下町内の石造遺物を列挙します。

- ① 宮前の道標 3基 昔の道しるべ
- ② 宮前の石棺 縄かけを持つ家型石棺の蓋石
- ③ 宮前真福寺の石棺仏と石棺





蓋石と底石

④神吉八幡神社の灯籠と石垣 神吉城主が造ったもの

⑤中西廃寺の塔の心礎

露盤と刹

⑥常福寺の石棺仏



蓋石と底石に像があります。

寺の裏にも石棺仏があります

山門の敷石に石棺材が使用されています

⑦大国墓地入口の石棺仏

蓋石に像

⑧辻の石棺仏 家型石棺の蓋石「辻姫の墓」

⑨正岸寺の石棺仏と石棺

組み合わせ石棺の蓋石と削り抜き石棺の身

⑩岸墓地の板碑 家型石棺の蓋石の裏に梵字があります

⑪西村の道標 個人宅にあるそうです

石棺仏は鎌倉時代から室町時代に造られたものらしく、道標は江戸時代に造られたものです。

町内の石造遺物をめぐり歴史を感じられてはどうか。

7. 西村八王子神社（大歳神社）

牛頭天王の 11 人の王子をお祀りされています。神社の敷地は 9 m 四方、お堂は 1.3m 四方で約 270 年前の享保 16 年(1770 年)に建てられました。今の建物は明治 34 年(1901 年)に建て替えられたものです。

8. 長慶薬師堂

広峰神社の祭神、農業の神様がお祀りされています。堂内の薬師如来のお身丈は 1 寸 8 分 (5.5cm) です。

このお堂の名前の由来は法華山谷川の谷川橋近くに金気田（かなけだ）というところがあり、その北の田が薬師と言っていたからです。

しかしそこでは火元が不用人心なため、長慶の村中に移されたようです。

9. 西神吉町の恩人

①原清兵衛

法華山より出る谷川の水によって水田を養おうと神吉大池を改築し、その功により、字赤ヶ谷の田地 4 反歩を時の領主より下賜された。

② 田中五郎兵衛

西村の庄屋をしていた田中五郎兵衛さんは、当時綿と大豆しか作ることのできない西村の東部で、中西の北部にある畑地をなんとか稲作のできる水田にならないものかと考えました。

そして中西の庄屋と相談の上、あらゆる困難を乗り越えて、当時の領主の許可を得て、承応 3 年 (1654 年) 工事に着手し明暦 3 年 (1657 年) 用水路は完成しました。

このことにより、西村、中西は畑地から良き水田となり、大変な喜びを得たものでした。五郎兵衛さんは享保元年 (1716 年) 96 才で亡くなられ、遺言によって新しく生まれ変わった水田のそばの小山に葬り碑をその頂に建設し、偉業を称えました。

この工事により 25ha の水田に大池から水が引かれました。

(「創立 100 周年記念誌 加古川市立西神吉小学校」より引用)

碑のある場所が解らず村の人に尋ねると、碑のある所まで案内していただきました。

やはり先人の偉業は今も土地の人々に大事に引き継がれていることが感じられました。



③大谷大吉

明治30年から10年をかけて、1町2反の水田を開墾し、その功績を称えた碑が造られました。碑はもと大池の側にありましたが大谷金治さん宅の庭に移されました。

訪問時は家の建て替えで家の前の倉庫の裏に石碑は分解されて、基礎石、台石、碑は保管され三度建てられる時を待っていました。

昔の西神吉町の人々と水との関わりの深さがよくわかります。



発行 研修部会